

平成 30 年度 第 1 回 南区区民会議 会 議 録		第 1 回 区民会議 平成 30 年 5 月 29 日		
		承認	作成	
		野上 H30/6/27	伊藤 修 H30/6/21	
日 時	平成 30 年 5 月 29 日 (火) 17 時 00 分 ～ 18 時 50 分			
場 所	南区役所 1 階 多目的室			
出席者 (敬称略)	区民会議委員： 網野 希美 栗原 清美 新藤 賢一 野上 一昭 有浦 正子 近藤 功 土橋 康夫 野口 松一 大高 昭雄 坂井 陽介 長澤 勇二 松本 勲 金川 ツギ 新川 貞夫 永堀 文子 (出席者 15 名)			
	南区役所職員： 副区長 区民生活部長 コミュニティ課長 コミュニティ課参与 コミュニティ課課長補佐兼企画係長 コミュニティ課企画係主任 コミュニティ課企画係主事			
	支 援 者： 日本コンサルタントグループ 牛久保 伊藤 傍聴者・報道： なし			
欠席者 (敬称略)	区民会議委員： 中村 真人 細渕 久美子 本橋 修 (欠席者 3 名)			
会議項目	1 開会 2 議事 (1) 平成 30 年度 会議日程と協議内容 (予定) について (2) 平成 30 年度 協議テーマ設定について 3 その他 4 閉会			
資 料	<ul style="list-style-type: none"> 平成 30 年度 第 1 回南区区民会議 次第 平成 30 年度 さいたま市南区区民会議の進め方 (案) SMC18-C211-01 平成 30 年度 委員アンケートご協力のお祝い 平成 30 年度 委員アンケート調査票回答一覧 委員提案の整理とテーマ設定の方向性について SMC18-C211-02 以上 5 点			

今回の決定事項

- 平成 30 年度 協議テーマ設定について協議した結果、今回・第 1 回の議論での諸意見を整理した上で、次回・第 2 回で決定することにし、次いでグループ編成、グループ討議に移ることを予定した。
- 平成 30 年度 第 2 回南区区民会議の開催日時については、平成 30 年 7 月 5 日 (木) 17:00～とする。

議 事 内 容

【平成 30 年度 第 1 回南区区民会議】

1 開会 (コミュニティ課長より)

- *本日の出席者 (委員) は 15 名、また、区民会議は公開を前提としているが、本日は傍聴人がいないことを報告した。
- *会議録作成のため、会議中の録音及び記録写真撮影をさせていただくことへの了承をお願いした。
- *南区区民会議設置要綱第 8 条に基づき、承認いただいているオブザーバーとして松井副区長、今年 4 月の人事異動により着任した細井区民生活部長の参加、また、会議運営支援者の参加

を報告した。

*今年度、事務局を担当するコミュニティ課課長、参与、課長補佐兼企画係長、主任、主事を紹介した。

*配布資料（事前に郵送している資料4点及び本配布の資料1点、以上5点）の確認をした。

2 議事（設置要綱第5条に基づき、野上会長が議長となり進行）

(1) 平成30年度 会議日程と協議内容（予定）について

議長：平成30年度 会議日程と協議内容（予定）について、支援者より説明を求めた。

支援者：資料「平成30年度 さいたま市南区区民会議の進め方（案）」に基づき、協議テーマの設定、グループワーク、取りまとめ、報告に至る協議計画及び計6回の開催を予定する会議日程と各回で予定する協議内容を説明した。

また、平成30年度協議テーマ設定に関連して、平成29年度第6回会議での主な意見を振り返るとともに、今回・第1回の開催前に実施した委員アンケート設問の背景などを説明した。

(2) 平成30年度 協議テーマ設定について

議長：平成30年度 協議テーマ設定について、支援者より説明をお願いします。

支援者：資料「委員提案の整理とテーマ設定の方向性（案）について」に基づいて説明いたします。委員アンケートには13名（無記入1名）の回答がありました。委員提案の集計結果は、別紙の「平成30年度委員アンケート調査票回答一覧」にまとめてあります。協議テーマ選定の方法については、「A 平成29年度協議『南区の交流を促進するために』を深堀するテーマを設定する」が回答数8と最も多くなっています。なお「B 委員提案テーマ一覧の交流以外の分野・キーワード（課題）に交流を絡めて設定する」は回答数3、「C 委員提案テーマ一覧の分野・キーワード（課題）から新たに設定する」は回答数1でした。（注：B・Cの委員提案テーマ一覧とは、昨年度第2回で整理した委員から提案されたテーマ一覧のこと）

このように委員アンケートでは、本年度テーマ選定の方法として、昨年度協議を深堀していくテーマを設定したいとの意見が多数を占めました。その深堀すべき課題では、組織・分野・世代間を結びつけた交流の拡大、交流の枠を広げる協働組織の構築など、交流拡大の仕組みづくりが挙げられていました。

また、協議テーマについては、区民の健康寿命延伸、SSNを活用した地域内交流、顔の見える地域活動の展開、転入者との交流、既存組織やネットワークを活かした交流の拡大などが提案されました。

以上から、本年度の協議テーマの方向性として、「既存組織やネットワークを活かした交流を拡大するために」と据えてみました。この方向性で昨年度協議内容を深堀していくテーマを選定していくことが考えられます。

なお、テーマ選定にあたっては、既存組織やネットワークをどのように考えるのかを再確認しておく必要があります。既存組織では、地縁型組織があり、環境とか福祉とかテーマでつながったテーマ型組織もあります。また、昨年度は、SSNなど既存組織を構成する団体（学区エリアの地縁団体など）をネットワークとして捉えましたが、区や市全体を網羅するネットワークについても検討するのか。さらに、交流拡大の仕組みとして、既存組織を活かすか、新たな地域交流組織の構築も検討するか、についても考えていく必要があります。

委員の皆様のご関心事とからめて、協議テーマ設定についての議論をお願いします。

議長：協議テーマについて、皆様の議論から絞り込んでいきたいと思っておりますので、まず全員から順にご意見ををお願いします。

委員A：アンケートの回答では、テーマ選定方法でAとし、深堀していくべきこととして、ターゲット大会を提案しました。ある自治会では、活動しているお年寄りを講師に、幼稚園児でもできるように教えてもらって、中学生が審判をするなどルールを決めて、子

どもたちがパターゴルフに参加しているという話を聞きました。例えば、自治会単位から活動を始めて、全市の大会にまで広げられたらと考えました。子どもの声はうるさいというが、知っている子どもの声はうるさくはないのです。知っている子どもを増やしていくまちづくりです。

委員 B：交流の深堀として、転入者との交流を提案しました。集合住宅の居住者を取り込んでいかなないと自治会は成立しない状況にあります。私の自治会では、65歳以上の高齢者が3割になり、若い世代が入って来ない状況が続いています。

今日も空き家調査をしてきましたが、これまでどんな方が住んでいたのか、ほとんど住民の顔が見えていなかったのです。これまでもサロンや大掃除とかをやってきましたが、自己満足的だったのではないかとジレンマを感じます。住民の顔が見える真の交流とは何かを考えたいと思います。特に、いろんな工夫をして、連携しようとしても転入者は乗って来ないのです。どうしたら乗ってきてもらえるのか。

委員 C：ネットワークを活かすといっても、高齢者にはよくわからないと思います。SSNもしっかり活動しています。テーマ設定の時にいつも疑問に思うのですが、南区の行政として、何を知りたいのか、何を吸い上げてほしいのか、がよくわからないのです。区民会議が机上の空論になってはいけません。

委員 D：テーマ選定方法では B とし、世代間交流から防犯、安心安全な街づくり、子どもたちを守る防犯を交流とからめて協議したいと思いました。新潟で下校途中の児童が事件に巻き込まれる事案があったこともあり、高齢者が街に出て、高齢者を街に引っ張り出して、子どもたちを守る活動が期待されます。

委員 E：テーマ選定方法では A に賛成ですが、何を深堀していくべきかが定まらないのでアンケートは無回答で出しました。

委員 F：交流促進をテーマに、もっと深めたいこととして、食と健康づくりで、区民の健康寿命を延ばしたいと考えます。防災などと同じく命にかかわる事でもあり、健康的な南区の住民を増やしていくために討議していきたいと思います。

委員 G：テーマ選定方法では A です。南区は、タワーマンションを中心とするエリアと昔からの地場エリアに分かれており、自治会では相互の交流に相当の苦勞をしています。交流には、楽しい交流、身のためになる交流、世代間交流が必要と思います。

辻地区では、辻1丁目～8丁目の自治会が連合会を組織して、住民の交流に力を入れてきました。辻地区全体でウォークラリーを実施しましたが、地図を片手に小さな子どもからお年寄りまで、家族単位や地縁単位の数多くのチームによる参加があり大変に盛況でした。市のウォークラリー協会から指導者の方が出てくださり、地区の散策を兼ねて辻地区のことを知ることになり、有益な住民交流行事となりました。このように、ウォークラリー協会のような団体を活かし自治会と連携して、交流をもっと深堀していくことが重要と考えます。

委員 H：区民会議でいつも考えていることは、さいたま市民であっても、南区民意識が弱いということ。南区の花ヒマワリについても例えば、区をあげてのヒマワリフェスティバルを立ち上げるとか、ヒマワリ音頭（歌と踊り）、ヒマワリスイーツなど、南区を他と区別するモノとコトづくりへのアイデアを出して具体化し、派手にアピールしていくことを考えたいと思います。

委員 I：テーマ選定方法では A で、交流を深めていくイベントなど手段を考えるべきだと思います。平成 29 年度協議のまとめ報告書の 55 頁のデータでは、南区は人口増とともに高齢者増も大きく、高齢者のマンション居住が多いのかと思います。このような中で、高齢者の交流の絆を何に求めるべきかが課題と考えます。

同じく 95 頁にあるように、南区では様々なイベントを開催しているように、行政はいろいろな事業をそつなくやっていますが、工夫すべきことは多いと考えます。高齢者の参加が少ないのではと思いますので、高齢者をイベントに参加させるには、参加しやすくするには、どのような手立てが有効なのか、を考えなければなりません。特に、知らせる、呼びかける広報を隅々までどのように徹底させるかが、大きな課題であると考えます。

例えば、浦和区と共同してのイベントを広げることも考えるべきです。また、区民の人達の関心事である医療に関するパネルディスカッションをやり、南区の医療課題をテーマに、地元の先生が南区の特徴の話で関心を高める、その開催周知は自治会を通じて徹底するとか、工夫すべきです。南区の予算においても、今年はこの分野を選んで重点をおくことにし、予算も増やすべきであり、例えば、今まで 5 回しかできなかった広報を 10 回に増やすとかをやりましょう。

委員 J：テーマ選定方法では B です。昨年度は交流を促進するためにとテーマが大きすぎて、まとまらなかったと感じています。交流を深めるためなら、もっと具体的な方向でテーマにすべきと考え、スポーツをして健康を維持、交流を推進と提案しました。

地域には小さなサークルがあるが、募集しても情報発信してもなかなかメンバーが増えず、いつも同じ人達でやっており、もっと多くの人達とやりたいと思ってもできない現状があります。高齢介護課の長寿応援手帳登録団体に入れば、ある日にウォーキングをすれば、活動に応じて長寿応援ポイント（シール）がもらえるので、張り合いも出ます。活動団体と活動内容について、もっと紹介していくことができれば、健康づくりのために自分がしたいスポーツ探しもできて、仲間づくりが進み、地域の子供たちも一緒に参加して大会をするなど世代間交流もできます。また、新しいスポーツを紹介するとか、道具の貸し借りなども容易にできるようにしたいと思います。

委員 K：交流としても、自分に合ったもの、自分の得になるもの、自分のためになるものと考えたと交流の中身が違ってくると思うのです。どんな交流で固めていくのかが問題です。多くの団体の人をお願いしていくためには、まずは小さいことからやっていかないと、区全体として盛り上がっていかないとと思うのです。

文蔵小学校では、「昔遊び」を児童生徒、父兄、お年寄りが一緒になって行っており、子どもたちは喜び、教えを通じて会話がなされ、相互交流の良い機会となっていました。このような小さなことから始めていくことが大事であると思います。

委員 L：交流イコール、コミュニティだと思います。交流コミュニティがしっかりしていると、何か施策を投げた時に浸透しやすいとか、市民が何か呼びかけた時により浸透しやすいのだと考えますので、これは、社会インフラなのかなと思います。交流コミュニティには、各世代だったり、転入者だったり、いろんなテーマで活動する市民、既存組織が集まるわけです。

昨年度の区民会議で SSN の取組があることを初めて知りました。既に出来上がっている組織があるのなら、これをもっと幅を広げて充実させていくことが重要だと思いましたので、アンケートでは選定方法では A、テーマとして SSN を活用した地域内交流を提案しました。

しかしながら、地区で SSN について聞いてみるとコーディネートする人がすごく大変であるとのことで、なかなか前に進まないと聞きました。確かにいろんな価値観を持つ団体が集まるわけですから、集まることは集まっても、次に何をやるようになった時に、なかなか大変であるとは思いますが、区民会議の討議でも、各論に入った時にどうやっていくのが課題となるとは思いますが、みんなで工夫していくことができると思います。学区単位のエリアは、子どもがいない高齢者でも活動が見える範囲、自分の住んでいるところと意識し把握しやすい範囲であると思いますので、交流コミュニティを考えていく上で有効と考えます。

委員 M：健康無くして何もできないですから、健康をテーマにした討議をお願いしたいと思います。

議長：他に意見はございますか。では、ここまでを取りまとめいただけますか。

支援者：テーマ設定の方向性として、昨年度協議を深堀していくこととし、「既存組織やネットワークを活かした交流を拡大するために」と提案しましたが、例えば、「健康づくりを推進するために」を協議テーマにして、サブテーマ的に既存組織やネットワークを活かして交流を進めるとすることもできると思われれます。また例えば、「転入者を地域コミュニティに巻き込むために」を協議テーマにして、既存組織やネットワークを活かして交流を拡大していく観点で考えていくこともできると思います。

このように、昨年度の委員テーマ一覧の分野・キーワード（課題）を目的化して、テーマ設定し、SSNなどの既存組織を活用した地域交流の在り方を深堀していく、他団体と連結して地域活動として広げていく方策を考えていくことができるのではないのでしょうか。また、交流はコミュニティがベースになり、広くコミュニティの活性化を考えると、課題への対策にもつながるのではないのでしょうか。

委員 N：地域の交流を図るには、ごみゼロの日の一斉大そうじが住民相互を知り、コミュニケーションの場となり、非常に有益な機会となっていると思います。しかし、集合住宅、特にアパートからの参加は皆無に等しいので、このことでさらに溝が深まってしまいます。

一斉のあいさつ運動の実施も、やることは良いが、朝夕会わないと挨拶はしないし、やる意義は良くわかるのだが、一人住まいとか、子どもがいない家庭では全く関心がないのです。行政はつつがなく多くの事をやっているのですが、こんな人はいつも参加しないということが常態化しているのが問題です。こういう人をどうすれば交流の場に出てきてもらえるかになります。

支援者：多くの人を巻き込むきっかけづくりが重要なのではないかと考えますが、転入者との交流は具体的にどうすべきかなど、交流を深堀するもっと具体的なテーマが必要と考えます。

委員 O：深堀したい課題は各々多様であると思います。ともかく、委員アンケートでは昨年度テーマである交流促進をさらに深堀するものを設定するという A が多かったわけです。これまでのご意見からは、防犯・防災、イベント、活動に出てもらうための周知や広報が課題になっているように思います。これらに対応するスクールサポートネットワーク（SSN）のような地域サポートネットワーク（RSN）的な組織が必要ではないかとも考えます。様々な課題認識とからめてテーマを設定していくことになると思います。

議長：SSNについては、昨年度の資料にも掲載してあります。例えば、SSN にぶら下がる別動隊組織をつくって、防犯・防災、イベント、周知や広報などに対応していくこともできるのではないかと考えます。ただし、SSN ごとの力の差が大きいことが問題ですので、委員の皆様の団体で主導するよう頑張ってくださいが必要であると思います。既存組織を活かしていくとして、別動隊をつくるのが良いのではないかと思います。

委員 P：これまでのご意見は幅がありすぎるように思います。例えば、「楽しんで健康づくり」と絞り、誰が主導してやるかが課題になりますが、活動参加へのメリットを訴求し、新しい組織でというのではなく、既存の複数のいくつかの組織が協働していく形をつくって対応していくことが良いと思います。

委員 Q：総合振興計画シンポジウムのチラシにある「アーバンデザインセンターみその」を耳にするが、どの程度のまちづくり活動をしているのですか。

副区長：本市には、アーバンデザインセンターが大宮とみその2つあり、市民・行政・民間事業者・専門家など地区まちづくりに係る多様な主体が協働し、互いに相乗効果を生み出していくためのまちづくり拠点施設として開設されています。官民共同で運営され、IBM、イオン、ホンダ等の企業も巻き込んでいます。まちのデザイン、メンテナンス、サービス、プロモーションの各分野のプロジェクト企画立案、社会実験、事業化等により、持続可能な地域マネジメント体制の構築を図っています。南区でもその成果を取り込んでいこうとしています。

支援者：協議テーマについてご意見を伺いましたが、本日内でのテーマ決定は無理としても、どのように決めていくかを考えなければなりません。昨年度の委員提案テーマも含めて、挙げられたテーマを目的化して、交流と絡めていくことを基本にしていきたいと考えます。本日の意見を整理して、いくつかテーマ案を検討して資料を作成し、第2回会議開催前にお目通し願った上で、第2回で例えば3つのテーマを決定し、委員の皆さんが関心あるテーマでグループ編成とグループ討議に移っていくのはどうでしょうか。

副区長：昨年度の区民会議では、交流を拡大するための本質をとらえていて、わくわくしました。本年度の協議テーマを検討するにあたって、「深堀するとは、どのようなことなのか、どのような成果物を考えるのか」が気になりました。交流インフラを作って多様な人々を巻き込んでいく案がありましたが、深堀として、実

践に向けるマニュアルを作り、その中でプロモーション、伝え方、参画を誘発させる方法を考えていくことができるのではないかと考えます。また、深堀として、プロモーションや広報の観点を横串に据えて考えていくこともできると思います。これらの点も考慮した今回の取りまとめとテーマ案の提示をすることを期待します。

支援者：昨年度の協議でも交流を促進していくための枠組みとして「きっかけづくり、場づくり、人としくみづくり」の観点を重視しました。本年度は、交流を拡大し活性化していくためのプロモーションを考えていくこともありうると思います。ただし、交流への意識や関心を高める、交流を促進する対策などを含めたプロモーションを協議テーマ自体に据えるのか、手法として位置づけるのかの問題もあります。また、幅広く交流を広めていくためのコミュニティのインフラづくりも提案されましたが、交流活性化のためのインフラを改めて考えていくこともありうると思います。

委員 R：広報に関連し、行ってみよう、参加してみようとさせることが重要です。あじさい通りやお地蔵さんなど地域の見どころ、また、別所沼の風の神様のところに 6 月にヒマワリを植栽する、公園ができるなど、地域の様々な取組みなどをこまめに広報し、PR することが特に重要であると感じています。

副区長：本年度の区長マニフェストに掲載があるように、区の花ヒマワリの PR の実施を引き続き行うことにしていますし、西南さくら祭りの開催などもコミュニティ活性化のインフラとして位置づけています。

昨年度の協議で、南区に必要な 3 つの交流、交流促進のための 3 つの方向性ができて、本年度では、交流を促進するための、また、コミュニティを推進するための、社会的で効率的なインフラをつくろう、となるのがおもしろいのではないかと、思いました。その中身として、プロモーションや広報のあり方を考えていくこともできると思います。

議長：協議テーマの設定、そして、今回はどのようにしましょうか。

支援者：皆様のご意見が基本になります。ご提案ですが、まず今回のご意見を委員アンケート結果も含めて整理し、平成 29 年度協議の南区に必要な交流、交流促進の方向などを考慮し、深堀する協議テーマ案とその考え方を例示して資料化したいと思います。

委員 S：深堀って何だろうと考えました。誰が、どのように、と具体化への道筋をつくる事ではないかと思えます。例えば、餅つき大会をやったらどうでしょうで終わるのではなく、誰が何をどのようにしていくのかを検討する必要があります。さきほど副区長からマニュアルをつくる話がありましたが、各組織向けのマニュアルをつくっていくことができるのではないかと考えます。

ヒマワリ音頭やヒマワリスイーツの話がありましたが、具体化に向けて例えば、区民に募集することから始めたらと思います。予算が必要かもしれませんが、組織を使わなくともできることではないかと思えます。

委員 T：行政ではどこまでやっているのかがわからず、いつも不明であるので、協議テーマを提案する際には、関連する情報提供をお願いしたい。また、区民会議の提案が、区としてどこまで進捗しているのかも示してほしいです。

支援者：協議テーマに対応した、区としての取組、進捗状況の情報提供、また、これまでの区民会議の提案がどのように区政に活かされ、どこまで進捗しているのか、の情報提供が必要であるということでもよろしいでしょうか。

議長：ご意見ありがとうございました。それでは、本日の意見を整理していただいて、次回会議で引き続き協議テーマについて議論をして決定したいと思いますので、よろしくお願ひします。以上で、本日の議事を終了いたします。

—— 議事終了 ——

3 その他（事務局より）

・総合振興計画シンポジウムの案内

＊7月1日開催のシンポジウムの案内と参加申し込み方法が説明された。

・次回日程について

＊第2回の日程について、平成30年7月5日（木）17：00～とすることです承された。なお、会場は、後日案内することとした。

5 閉会

以 上